



## 第52回米国癌治療学会議(ASCO)

國土 貴嗣

東京大学医学部附属病院肝胆膵外科・人工臓器移植外科  
埼玉県立がんセンター消化器外科

第52回米国癌治療学会議(ASCO)は2016年6月3日から7日までの間、シカゴにある米国最大のコンベンションセンターMcCormick Placeで開催された。学会場はシカゴ中心部から南へ4kmほどのところに位置するが、シカゴ中心部の大通りの沿道にはASCOの垂れ幕が掲げられており、期間中には癌撲滅チャリティーウォーキングが開催されていることから町をあげての一大イベントであることがうかがえる。

プログラム一覧を見ると、発表内容はTumor biologyといった基礎的な内容から乳癌まで23のカテゴリーに大別され、消化器癌はcolorectalとnon-colorectalに分かれてプログラムが組まれている。ここでいうnon-colorectalとは胃癌、食道癌、膵癌、神経内分泌腫瘍(NET)、肝細胞癌、胆管癌を含むすべての大腸癌・直腸癌を除いた癌腫を指しており、初日は午後からnon-colorectalのセッ

ションとして胃・食道癌、膵癌に関する教育講演が行われた。

2日目の午前中のポスターセッション(写真1, 2)ではcolorectalとnon-colorectalのセッションが同時並行で行われた。ASCOの特徴的な点としては発表者がポスターに可能な範囲で待機していることが義務付けられている点である。そのため参加者も発表者に対してすぐに内容に関する質問をすることができ、ポスターセッションではあるものの活発な議論が展開されていた。筆者は従来のICG15分値に基づいた術前肝機能評価に血清アルブミン値を追加した新規スコアリングシステム(ALICE score)の有用性を検討した多施設共同研究<sup>1)</sup>と、日本肝癌研究会追跡調査データにおける門脈腫瘍栓合併肝細胞癌に対する外科的切除の有用性<sup>2)</sup>に関する2つのポスター発表を行った。前者はALICE scoreが欧米の

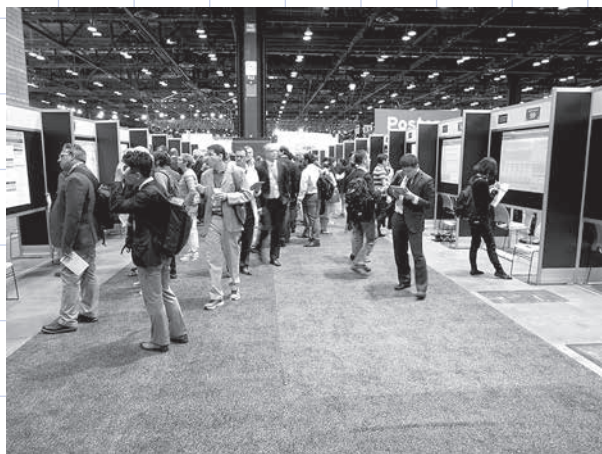


写真1 ポスターセッションの様子  
右手前2つが筆者のポスター

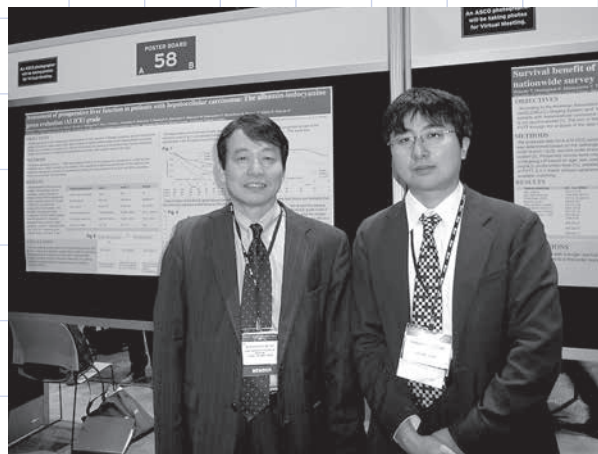


写真2 近畿大学医学部消化器内科学 工藤正俊教授とのポスターセッションでの記念撮影  
左：工藤正俊教授、右：筆者